

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	onestepsmile二俣川教室		
○保護者評価実施期間	2025年2月10日		2025年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	2025年2月10日		2025年3月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月29日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの発達状態に応じた個別活動や小集団活動	個々のニーズに合わせた個別療育の実施を軸に、日常動作訓練や創作活動、小集団生活適応訓練を日々の活動に取り入れている。	個別療育定期的に行った後に、保護者様のに分かりやすくフィードバックできるツールの活用を検討していく。子どもは成長するに伴い、視野を広げ認識力を高め、自己探求や他者とのかかわりを深めていく。そのために発達段階に相応しい生活や活動を十分に経験する環境を提供していきたい。
2	視覚支援の充実	日々のスケジュールや時間を視覚化し、一人で確認して次の行動にうつることができる工夫をしている。 おもちゃをしま箱に入っている中身の写真を貼り、一人でも写真のように片付けを行えるようにしている。 皆が見える場所に「声のものさし」「お友達や先生との距離感」「砂時計」「おしまいBOX」などの視覚支援を用意し、いつでも確認できるようにしている。	現在用意している視覚支援でも理解が難しいお子様に向けて、TEACCHプログラムを用いてより分かりやすい視覚支援の作成を進めていきたい。
3	支援員同士なんでも意見が言えるような風通しの良い環境を整えております。	小さな事業所だからこそ、子どもたちの小さな変化もすぐに報告・相談・共有・話し合いをし、対応できるように取り組んでいます。	支援員同士、誰とでも意見交換しやすいように、日ごろからしっかりとコミュニケーションをとるとともに、その場にいらない支援員にもしっかり共有できるよう心がけていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ありがたいことにご利用希望者の方が多く、退会者も少ない為、支援が必要と思われる新規のお子さま達にご利用頂けないこと。	定員があるため、新規のお子様を受入れる事が出来ない。 早期療育の必要性を知っているだけに、申し訳なく思う。	現在ご利用頂いているお子様を第一に考え、引き続きたくさん笑顔が溢れる場所を提供していきます。 またご家族に寄り添い、共にお子様の成長を見守っていきたいと思います。
2	支援員によって支援にバラつきがあるという意見がある。	支援員間のスキルが共有できていないため。	支援員の知識の底上げを行う必要がある。 スキルを共有することで、支援員間の理解と信頼の強化を図り、柔軟性と対応力の強化に努めていく。 各支援員が自身の弱点を補い、強みを最大限活用できるように互いの能力を理解し尊重し合える環境を整えていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	One step smile二俣川教室					公表日	2025年3月29日	
					利用児童数	11	回収数	8
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応	
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	6			1	・部屋の奥まで入った事がないのでよく分からない。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	7					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7					
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	7					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	6	1			・子どもが通所する前から支援計画が作成されていて少し戸惑った。	・利用日初日までに支援計画をたてる必要がある為、見学時や契約時のアセスメント等を踏まえて作成させて頂いております。今後、保護者様へ周知させて頂きます。 ・引き続き子どもたちの様子をお伝えしつつ、保護者の方のニーズにも応じていきます。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	6			1	・まだ入所して間もないのでよく分からない。	・本人支援においては、個別支援計画策定から「5領域」を必ず取り入れ実際の支援にも取り入れ記録にも残している。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	6			1	・まだ入所して間もないのでよく分からない。	・引き続き計画書に沿った支援を提供できるように努めていきます。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	4	1		2	・放デイの子たちと遊んで頂いた。 ・まだ入所して間もないのでよく分からない。	・他の子どもと活動する機会についてはご要望や必要性に応じて今後検討していきます。
保護者 への 説	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	7					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	6			1	・まだ入所して間もないのでよく分からない。	・個別支援計画を提示しながら支援内容について説明しています。モニタリング児には、近況を書面にて提示しながら説明した上で次期個別支援計画を提示しています。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5			2	・まだ入所して間もないのでよく分からない。	・今後保護者の方に必要性を確認し、対応を検討していきます。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	7					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	6				・まだ入所して間もないのでよく分からない。	・面談は定期的に行っています。 ・子育てに関する助言等は保護者の方に必要性を確認し、対応を検討していきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7					

明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3			4	・まだ入所して間もないのでよく分からない。	・保護者交流会は年に1回、開催しています。今後も引き続き保護者様の方のご要望やご意向を取り入れて行事の開催について検討していきます。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	6			1	・まだ入所して間もないのでよく分からない。	・相談や苦情窓口については契約時に重要事項説明書を提示しながら説明しています。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	7					
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	6			1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6			1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7					
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	7					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	5			2	・まだ事故が起きてないため。	・速やかに保護者様に連絡できるよう、緊急連絡先の記載、確認をさせていただきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7				・人見知りのある娘ですが、すぐにスタッフの名前も覚え安心して通えている様です。	・今後も引き続き、子ども達や保護者様が共に安心できる環境づくりと療育に努めていきます。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7				・送迎のスタッフが誰かを予想したり、通所の前日から楽しみにしている。	・今後も通所を楽しんでいると思っていただけるよう支援内容を提案していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	7				・いつも細かくその日の活動や様子を連絡して下さり、保護者としても娘が通所するのを楽しみにしています。	・ご意見を参考に、より支援に満足して頂けるよう今後も務めていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	onestepsmile二俣川教室		公表日		2025年 3月 29日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	<input type="radio"/>		基準は満たしており、活動に応じて児童が利用するスペースを分け入る。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	<input type="radio"/>		必要に応じて職員を増やし調整している。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	<input type="radio"/>		屋内の玄関に段差はあるが、手すりが設置されている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	<input type="radio"/>		毎日の掃除、アルコール衝動を徹底している。子ども達の活動に合わせてスペースを分けている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	<input type="radio"/>		必要に応じて個別のスペースを確保している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	<input type="radio"/>		業務を行う上で気になる点が出てきた際には、都度職員間で話し合いを行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		法令に合わせて年1回、事業所評価を実施し、業務改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	<input type="radio"/>		業務を行う上で気になる点が出てきた際には、都度職員間で話し合いを行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		<input type="radio"/>		現在、第三者による外部評価は実施していないが、必要性を検討した上で、今後体制を整えていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		<input type="radio"/>	事業所内での研修を行っている。	今後、外部研修の機会を増やしていけるよう検討していく。
適切な支援の	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	<input type="radio"/>		支援プログラム作成・公表を法令に合わせて実施。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	<input type="radio"/>		計画期間ごとにモニタリングを行い、利用者や保護者様の意向を取り入れた支援計画を作成している。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	<input type="radio"/>		子ども達の日々の様子を職員間で共有し、課題に応じた支援方法を、共通理解を持って検討している。	
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	<input type="radio"/>		計画は職員間で共有して支援内容に活かしている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	<input type="radio"/>		アセスメントの実施、日々の様子や支援内容等を記録し、毎月1回の職員会議にて確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	<input type="radio"/>		「本人支援」「家族支援」「移行支援」「地域支援・地域連携」の項目に対して、各お子様のニーズや課題を個別支援計画に反映させ、一人ひとりに応じた目標を設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	<input type="radio"/>		活動プログラムは職員のアイデアを取り入れ、準備を分担することでチームで作り上げるようにしている。	

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		子どもの特性や状況において、みんなにとって有益になるようなプログラムが提供できるように努めている。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		子どもの発達段階に応じた個別や集団における課題を見つけ、個別支援計画に反映させている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		その日の支援内容や役割分担について確認する機会を設け、利用者の状況や変化を職員全員が把握できるようにしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		送迎終了後に、保護者様からの連絡事項やその日にあった出来事を職員間で話す機会を設け、情報交換を行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		支援記録・業務日報に記録を残し、支援の検討・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		最低でも半年に一度のモニタリングを実施し見直しを行っている。保護者に対してはできるだけ面談を実施し、学校や他事業所での様子を共有しながらお子様の全体像の把握に努めている。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管や管理者など、適任者がサービス担当者会議に参加している。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者様の許可を頂き、幼稚園・学校・相談支援事業所と連携して情報共有を行い、支援体制を整えている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		幼稚園や保育園など籍園との併行通園や移行に向けて利用時間や曜日の調整と支援を行っている。保護者様や関係機関の意向をもとに連携を図り情報を共有し、支援方針について共有を図っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		就学前には、各学校と情報共有を行っている。	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		今後必要であれば検討していく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		地域の中で交流できる施設があるかなど、様々な機関や施設とのつながりを作っていくよう努めていく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		連絡帳で日々の様子をお伝えするとともに、送迎時にも都度活動の様子や状況をお伝えし、情報共有を行っている。	
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○		適時、電話やLINEなどで情報共有を行い、気軽に相談いただける環境づくりを心がけている。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に保護者様と書面の読み合わせをし説明を行い、質問等あればその場でお答えしている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約時に本人や保護者様のニーズを聞き出し、それに基づいた支援を考えている。また面談時に新たなニーズがあれば、都度合う支援を考えている。	

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		面談時に支援内容の説明を行い、保護者様から同意して頂いたうえで署名をいただいている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		半年に1回程度の面談を定期的に行うと共に、相談したいことがあれば適宜面談日を設定している。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○		年に一回は保護者交流会を開催し交流の場を設けている。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		相談や申入れがあった場合、電話や面談にて迅速かつ適切に対応するよう努めている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月おたよりを作成し配布している。また日々の活動をLINEやInstagram等で発信している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報は鍵付きの書庫に保管している。廃棄書類等はシュレッダーを使用している。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		言葉と共に視覚的補助教材等を使用するなど、伝達方法を工夫したり、伝わる方法をお子様や保護者様に合わせるようにしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		R7.3上旬に地域住民を招待して、親子で参加できる親子コンサートを開催し、子どもから年配の方まで参加して頂きました。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルは策定しており、定期的に研修を行っている。	各マニュアルはいつでも閲覧できるよう、事業所の入口付近に配置を検討していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCP（感染症・自然災害）は策定しており、定期的に避難訓練や研修を行っている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		服薬の必要な子どもの保護者様より、状況を共有し確認している。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーについては、契約時に確認している。配慮が必要な場合は、医師の指示書を提示いただくようにしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			安全計画を策定し、計画の見直しなどを通して、安全安心な空間で支援していく。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		契約時に非常時（地震・火災）の対応や避難経路について説明している。	安全計画を策定し、計画の見直しなどして周知していく。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		事案が起こった際ヒヤリハットを作成し、原因と対策について職員間で話し合い周知に努めている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止マニュアルを作成しており、定期的に研修を行っている。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○			やむを得ず身体拘束にあたる行為があった場合は保護者様に報告し、承諾を得て記録に残していく。	